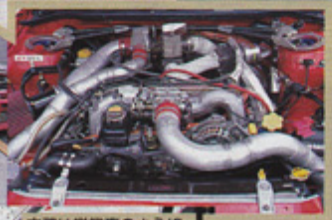
夢の共演!? トップガントーナメント

PRESENT CLUBスーパーゼロヨンフェスティバル

最近のゼロヨンは、GTIRにお金をかけた者勝ち、所詮GTIRには勝てない、という雰囲気が色濃く漂っている。でも、GTIRの所有すらままならないオレたちにはチューンドGTIRなんて夢のまた夢。ところが、プレゼントクラブが提案するのは、ハンディキャップ制のゼロヨンなのだ。ロードスターやシビック、プリメーラといったクルマでも、スープラやGTIRと互角に渡り合える競技が広まれば、もっとゼロヨン人口が増えるだろう。そうなれば、ゼロヨン大会の回数や開催場所も広がっていくかもしれない。

その先駆けとして、全国の有名チューニングショップが持ち込んだスペシャルマシンで、トップガントーナメントが行われたのだ。これは、予選のベストタイム（例えば12秒）を本戦の基準タイムとし、この基準タイムを越えずに早くゴールした者が勝つというシステム。基準タイムを越えると失格になってしまうのだ。いかにコンスタントにタイムをたたき出せるかが要求されてくる。レギュレーションが少し分かりにくかったため、見ている方は、遅くゴールしたのに何で勝ち進んでいるのか、が理解しにくかったようだ。また、次回見直しは必要としても、ハンディキャップ制ゼロヨンが普及すれば、いろんなクルマでゼロヨンに挑戦する人が増えてくるだろう。次回が楽しみだ。

ハンディキャップ制で車種を問わず対等に戦えるゼロヨンが成立！



●APEX本社Bチーム

走れるワゴンをテーマにつくりあげた最強レガシィ。鍛造ピストンはもちろん、燃焼室加工、タービンはIHIRX6 TCW15-P20へと交換。ウェイストゲートからブレーキローター、足まわりにいたるまでAPEX製品で強化されている。

内装は営業車のよう!?

藤村オートの180SX と戦ったのは、JUNオートのお客さんシルビア号だ。パイロットは藤村さん自ら、JUNオートの方もオーナー自身がステアリングを握った。

マインズのランサーエボリューションに対抗するのは、オートモードオリジナルのFD3S "公認大人のおもちゃSPL-7 号"だ。ドライバーは米田さん、森さん。

注目度の高かったトップシークレットのスープラ。ゴールドのボディが迫力満点。

関西勢の熱き戦い。HKS関西のランエボに対するのは、銭谷自動車のマシン。

トップガントーナメント予選
1本目対戦組み合わせ(車両は1本目と同様)

HKS関西	VS	アンフィニ
オートランドイズム	VS	ガレージアクティブ
スタート	VS	スティルウェイ
八潮ファクトリー	VS	トレンド
HKS北海道	VS	マインズウエイブ
JUNオートメカニック	VS	銭谷自動車
PANスピード	VS	フジタEGN
アプローバル	VS	アバンス名東
Beeレーシング	VS	フィースト
ブリッツ	VS	ガレージ福井
オーテックツカダ	VS	トライアル
ウエストスポーツ	VS	レイブロスカーズ
藤村オート	VS	アペックスモータースポーツ
トップフューエル	VS	APEX本社A
ファリーナレーサーズ	VS	HRFホクエ
トリプルA	VS	ブリンプ本社
アプフラッグ	VS	オートモードオリジナル
クォーターマイル	VS	トップシークレット
オプ2	VS	カッパツ
オプションワゴン	VS	クルマ工房デイサイド
HKS本社	VS	APEX本社B

●HKS 180SX

GT2510が装着された180SX をドライブしたのは、本社の広報担当である松井さん。Fconでのセッティングはばっちりだったでしょうか。

シルビア対決は、ピンクのマシンでおなじみの八潮ファクトリー（岡村社長みずからドライブ）対トレンドの"岐阜トレンドの若い衆シルビア号"。トレンドの方は、もちろん若い衆の牧村さん。